

広報

土づくり



増刊 第7号
発行所
(株)土屋
土屋新聞
土づくり編集部



当たり前前のごとを当たり前前 〜障害児の親とつづ〜

視覚障害者である水島恵さん。ご主人も視覚障害者で、お二人の息子さんには知的障害があるとのこと。障害児の親として、人生に起こる物事を一つ一つ乗り越えながら道を切り開き、家族との強い絆を形作っていく水島さんの過去、そして内なる想いをお伝えします。

■白衣への憧れ

進路を決めたのは小学5年の時です。病院でマッサージ師として働かされていた大先輩の影響で、「その仕事、いいな」と。子どもの頃は私、本当は看護師になりたいかったです。けれど小学4、5年の頃、視覚障害は欠格事項で看護師資格すら取れないということが分かった。そこから大人になったらどうしようかと考えた時、大先輩のように白衣を着て病院でできる仕事に憧れて、道を決めました。

■夫との出会い

京都府立盲学校には、受験を控えた人が集中的に普通教科を勉強する予備校のような科があります。これは全国の盲学校の中でここにしかないのです。後の夫も来ました。岡山からわざわざ。私はその時

19歳、彼が21歳。科は違えど1年間、同じ時を過ごしました。彼はすでにマッサージ師の資格は持っていました。他の進路を受験するために来たんですね。そして卒業後は徳島の盲学校のリハビリ課に進学。そこから遠距離恋愛が始まりました。

■恋愛、仕事、そして結婚

私は卒業後、京都市内の病院に勤めました。ドクターから患者のカルテが回ってきたら5、10分くらい該当箇所をマッサージするという仕事ですね。その間、彼は学校を中退（視力の限界と学校の環境に馴染めなかったため）し、神戸で就職したので、まだまだ遠距離恋愛は続きました。昔は今と違って携帯電話がなかったので連絡は固定電話でしたが、生活スタイルが違うので大変でした。ましてや視覚障害者同士。お互いに行き来して街中でデートを楽しむのもなかなか難しい。だから時間が合うときに自宅や電話でひたすら話していました。それから彼が神戸の職場を辞めて地元岡山に帰ろうかとなったとき私も岡山に来たんです。24歳でした。

【プロフィール】
水島恵(56歳)
岡山市在住
視覚障害
(先天性緑内障)

■障害児の親になる

結婚の翌年、長男が生まれました。そして3年後に次男が。長男は知的障害と自閉症で、次男はそこに視覚障害もあるトリプル障害。いくつもの先例から自分たちの障害が遺伝するかもしれないことは知っていたので恐れはあまりなかったんですが、知的障害は想定外だったので、どうしようという感じはありましたね。長男はなかなか言葉が出ず、1歳半検診で、保育園に入れて環境を変えたらと提案されたんです。私は岡山に来たばかりで友達もおらず、公園デビューもなかなかできずに、ずっと二人だけの生活だったので。保育園に入ると遊びなどは増えてきましたが、やっぱり言葉は出ない。そこで検査に行くと、自閉症傾向や知的障害もあるかなとなりました。保育園に通いながら、定期的に言語訓練をすることになりました。私たち視覚障害者は移動が大変です。子どもをおぶってバスに乗り継いだりしながら訓練に通いました。若かったから頑張れたんですね。次男が生まれたのは長男が3歳の時。長男に障害があると分かった段階で兄弟が必要だと。一人っ子では寂しいかなと思い、計画出産でした。次男は生まれた直後に先天性緑内障の兆候があったので、落ち着いたら検査に行こうかなという感じでした。その時はまだ自閉症や知的障害は頭になく、割と楽観的に捉えていたんですが、大変だったのは親たちですね。

■親とは何か

親たちからは「ほら見たことか、子ども

もなんか作って。一人でも大変なのに、こんな結果になって」と言われました。とりわけ、まだおなかの傷が癒えないうちに枕もとで、一言言われたくない母からたくさんの厳しく激しい言葉を浴びせられたのがすごく辛かったですね。「どうにか施設に預けるしかない」とか。夫婦の負担を軽減するためにどんな手段でも考えなさいという感じでした。私は施設に入れるなんて考えたこともなかったのですが、自分の母親ながら、ほんとに情けないと思ったと同時に、母は私をもうけてからずっと障害児を産んだという罪の意識を抱えて生きてきたんだなど、そこで初めて分かったんです。母は私と6歳になるまでしか暮らしてないから、私がいることで世間から浴びるいろんな嫌なことや苦勞とかを私と共に味わって、へこみながらも強くなるのができなかった人です。例えば親子で買い物に行くと、店内で店員さんやお客さんに、私を物珍しくじろじろ見られたりする。そういうことに親として一緒に傷ついたり、傷つきながらも日々そうしたことを重ねていく中で、それを自分なりにどう捉えるのかや、どうしたら良いのかを家族と一緒に考えたりしてきていない。だから私が重複障害の次男を出産したことを受け止められない。自分が私を産んだ時の悲しみをそのまま抱えている人なんだと気づかされて。でも、私はそうじゃないよ。そしてそれ

を人生の態度で示そうと思っただけです。

■「当たり前」の心を「当たり前」に

人生で起こる様々なことを家族で悩みながら二つずつ乗り越えて生きていくこと。当たり前前のごころを障害があるからといって諦めるなんて変なと。

私は小学校に上がるまで、「あなたは地域の小学校に行けないんだよ」と言われまして。そこで初めて、他の子と区別されてるんだと。それが私には忘れられなかった。みんなが当たり前前になることを当たり前前にしてもらえなかった、切られたという気持ちがあったので、自分の子どもにはその辛さを味あわせたくなかった。せめて義務教育の間は「土屋根の下で暮らさないと、ちゃんとした親子関係はできない」と思っていたので、子どもは地域の学校の普通学級に通わせました。子どもたちもそれが当たり前前だと思ってくれたので。二人とも中学校を卒業するまではほとんど休まずに、大きな病気も特にならず、楽しく学校に行ってくれましたね。長男は高校進学を希望して受験したんですけど、受け入れてくれるところがなくB型作業所へ。その後、一般企業に就職しました。今はグループホームに住んで自動車部品を作る工場に働いています。次男は特別支援学校と盲学校の両方を受験しましたが、通学の条件などを考えて特別支援学校の高等部に。卒業後はどこにも行きたくないらしく、家にいますね。週に1回、生活介護に行っています。ただ3時間ほどなので、行って落ち着いたらすぐ帰ってくるみたいな感じなんですけど。コロナ禍になって外出は減りましたが、土曜日だけは靴を履いて家から1歩出るみたいな感じで外へ行っています。

■我が家 vs 行政

でも結局一番大変だったのは子育てではなくて、4人で当たり前前の暮らしをするために教育現場や教育委員会、岡山市の行政と闘うことでした。我が家 vs 行政でエネルギーを使ってきたのが一番大変で。もちろん目が見えないので、子どもが病気をした時の苦労とか、それはいろいろあります。子どもが粗相したときの後片付けってほんとに大変。ただ、それは先輩たちも通ってきた道だし、仲間同士で知恵を絞って合図が出来ます。けれど普通学級に行かせるとか、学校で本人の人権を守るとかは自分たちだけの闘い。保育園の申請で岡山市にNOを突きつけられたときは、役所に押しかけて課長を夜の9時くらいまで缶詰めにしてやりとりしました。もっともそれは課長が交代したときに対応ががらうと変わったので、役職に就く人によって物事が進むスピードなどが全く違うんだというのは実感しましたね。

■これからに向けて

現在、岡山県のユニバーサルデザインアンバサダーの活動を視覚障害者の視点で行ったり、コーチングや障害者ピアカウンセリングのセッションをしています。また私の歩んできた人生を、いずれ本にしたいとも。

この度、縁あって、株式会社土屋の顧問で友人の安積遊歩さんの紹介で土屋に入社しました。私を持っているものを出して社会貢献につながれば幸せだなと思っています。今はすごく気分が高まっている感じがしますね。

旅企画「MATAたび」

土屋で「おまもりおまもり」

クライアントの夢を叶える！
近所の思い出の場所から観光旅行まで

「MATAたび」って？

クライアントの旅への想いを叶えるプロジェクトです。日常を離れて、まだ見ぬ場所へ行き、さまざまな人と出会い、新しいことを知る。思い出の場所に行き、懐かしい声に耳を傾ける。近くの土手を散歩して、そよ風に身を任せる。それぞれの人に、それぞれの旅の形があると思います。人工呼吸器・経管栄養、リフトや車椅子などの使用で、外出に困難を覚えている、きつと旅への憧れを持っている、いつしやる方は多いはず。そうしたクライアントの希望に寄り添い、夢のお手伝いをするために「MATAたび」は生まれました。

心に自由を

コロナ禍の現在、外出の機会は減っていくばかりです。感染リスクを避けるために旅を諦めざるを得ない現状ですが、旅の始まりはいつだって憧れと想像から。計画を練る楽しさは、旅の大切な一部です。「MATAたび」ももちろん、コロナ禍が落ち着いてからの始動になりますが、まずはクライアントの皆さんに、行きたいところ、してみたことを思い描いていただけたら。アテンダントがカメラを片手に、クライアントの望むさまざまな土地を巡り、映像をつないで旅の気分を味わった

り、お土産を買うこともできます。旅先で出会う人や景色、物事、その一つ一つがかけがえのない人生の宝物になるはず。旅の本質は、心の自由。それが「MATAたび」の想いです。

「MATAたび」の大きな夢

クライアントの想いを叶えるのが「MATAたび」の第一の意義。けれど、「MATAたび」は、それを通して、誰もが生き生きと暮らせる社会を作ること、大きな目標にしています。



今はまだ、障害があることで移動の自由が制限され、宿泊施設や観光地域もバリアフリーとは程遠いのが現状です。ハンディキャップをもった方が街に出ること、でこぼこ道や段差で困っていることに気づいてもらい、それを通してバリアをなくすこと。障害をもっていない人も誰もが共に生きられる社会を作ること。すれ違ひざまに自然に手を差し伸べられるような、心のバリアフリーを広めること。あなたの旅で、あなたの一歩で、社会を一緒に変えていけたら。生きがいをもって暮らす喜びを感じるために。「MATAたび」は、そういう夢を持っています。

「MATAたび」あれこれ Q & A

Q:「い」も「は」の??

A:はい。国内であれば「い」でも「は」でも相談に乗ります。

Q:付き添いは?

A:できる限り、常に支援に入っている当社のアテンダントが付き添います。クライアントのことを良く知っているからこそ、気兼ねなく安心して旅行を楽しめます。ぜひ、当社のアテンダントとお話をしてみてください。家族も一緒にという方も、大歓迎です！

Q:参加費用は?

A:実費のみを予定しています。交通料金と宿泊料金その他観光にかかる費用が主となりますので、大幅に予算を軽減できます。(ご家族も一緒にされる場合はご家族分も本人負担となります。)

Q:コロナ対策は?

A:コロナ禍の状況を鑑みての旅行となりますが、マスク・検温等の基本的な感染対策は徹底します。なお、ワクチンを最低2回接種されていることが必要条件となります。

Q:「MATAたび」って誰がしてるの??

A:株式会社土屋のSDGs推進室です。メンバーには旅行会社の代表や元バスガイド、元バックパッカーなど、旅のプロフェッショナルが揃っています。

Q:もっと詳しい話が聞きたい!

A:ご相談は随時無料で承ります。話だけ聞きたい、具体的に相談したい等々、お気軽にお声がけください。アテンダントや管理者を通して、直接「MATAたび」にご連絡していただいても大丈夫です。

「ペコロスの母に会いに行く」の作者、ペコロス岡野先生
漫画第2弾!! 「母からの命のメッセージ」



ホームケア土屋 社内研修

赤いペン



ホームケア土屋では現在、新入社員研修を東海、関西、中国、九州の各エリアで土屋ケアアカデミーの全面協力の下、行っており、今月からは東北エリアでも始まります（10月予定）。

毎月あるいは隔月に1回、9時から18時までの2日間の開講です。統合課程（重度訪問介護従業者養成研修統合課程）を修了した常勤、非常勤すべてのアテンダントに受講してもらい、初日はコロナ対策をしっかりとした上で対面授業を

ています。
講師は私（河内）と中原しのぶ、関口久美子の研修品質責任者3人です。研修内容は、支援におけるアテンダントの不安解消と、介護技術の基礎の習得で、それを現場で応用発展することを目的としています。

具体的には、介護の基本的な部分で必要となるコミュニケーション方法（文字盤やまばたきなど）やバイタルサイン、更衣・車椅子介助の仕方。尿器の取り扱い方法など排泄における注意点。心肺蘇生法の実施です。その他、身だしなみや接遇についてもお伝えしています。また、研修を受ける前に支援に入っている方が多いので、実際に現場を経験してみても不安や困難を感じているところを取り上げたり、医行為に関した内容も教えています。

現在までに聞かせてきた疑問や不安の声も研修に組み込み、総合的に学べるようなカリキュラムを作成しています。重度訪問介護は、当事者の意向に沿った支援を基本とする当事者本位のケアですので、新入社員研修はあくまでも基礎の習得で、そこからは各々のクライアントに合った方法で支援をする必要があります。日々の生活支援はもちろん、血圧や体温などのバイタルは一人一人異なりますので、クライアントに合った標準値を示した上で、異常がないかどうか注視してもらっています。

社内研修によってアテンダントの不安や困りごとが解消されたり、バイタルの基準が明確になったりと、統合課程で学んだことの復習や新しい発見につながっているとの声も上がっていて、研修後には個別の質問も届くなど、カレッジの存在意義を感じています。今後とも、より安全で質の高い支援を届けられるよう、社内研修の内容向上を図ってまいります。

毎週 金曜日
14時30分 生放送スタート!!

こもちゃんTV

株式会社土屋の最高文化責任者であり、障害当事者でもある古本聡（通称こもちゃん！）とさつきばらんにトークしようという番組です。色んな障害や難病を持ったゲストとお話ししながら「生きるって何?」「多様性って何?」「障害ってどんな感じ?」「介護ってどんなお仕事?」「〇〇で悩んでいるんだけど、どうしたらいい?」といった様々なお話をしています。見ただけでもよし、参加してもよし。アシスタントを務めてくれる「原香織おねえさん」がやさしくフォローしてくれるから、みんなが気楽におしゃべりしてみましよう! お顔出しNGの方もビデオOFFでお気軽に参加ください。

みらくるYoutube
こもちゃんTV

こもちゃんTV
ミーティングパスワード510

土屋
Youtube

「こもちゃんTV」って?

重度障害者のいる家庭での心配事として、家人が高齢になった、亡くなった後当事者がどうなるのか、兄弟姉妹がいれば「いつかは自分が見るようになる」と思っていますよね。実際には、ほぼ同年齢の兄弟姉妹も歳を取り、直接介助などの世話をするというのは現実的ではありません。だからこそ、まだ土屋のような重度訪問介護サービスがあることを知らない多くの障害当事者やご家族に、サービスの存在を知って欲しいのです。経済的にはどうでしょう。例えば東京に住む重度障害者の場合、障害者基礎年金、重度障害者手当、特別障害者手当、心身障害者手当、燃料（交通）費補助といったものがあり、重度訪問介護サービスを受けながらのひとり暮らしが無理な額ではないと思います。ただ、この「手当」って、自分で聞きにいかないと教えてくれない事があります。我が家では重度障害者手当の存在を知り申請に行ったら、担当者が「重複障害」という条件の意味を間違えていて、夫のように身体障害者手帳1級でも知的に障害がないから重複ではない、と言われて諦めた事があります。でも、その数年後に私が介護福祉士の勉強をしている時に「重複とは上半身（両腕等）の障害、下半身（両脚等）」といった分け方でもOK」と知り、慌ててもう一度手続きに行き、審査を受けてみたら重度障害者手当の対象者でした。残念ながら、過去に遡っての支給はして貰えず憤った経験があります。皆さんも受けられる手当を知らないでいるかもしれません。ぜひ確認してみてくださいね。

家族
あるある

知らなきゃ ツンツン

古本 由美子

広報土づくりへの

ご意見・ご感想

今後取上げてほしいテーマなどをお聞かせください
また、ホームケア土屋、訪問看護ステーション土屋のサービスについて、株式会社土屋の取組みについてのご意見もお寄せください。

ご意見・お問い合わせ窓口

client@care-tsuchiya.com

株式会社 土屋

本社：岡山県井原市井原町192番地2久安セントラルビル2階
総アテンダント数 1285名 総クライアント数 601名
ホームケア土屋 44拠点（40都道府県）
訪問看護ステーション土屋 2拠点
土屋カレッジ 10校舎
デイホーム土屋 1拠点
2021年9月現在